

凶解外来語辞典

吉沢典男 著 大沢泰夫

角川小辞典——27

76032

角川小辞典

27

図解外来語辞典

吉沢典男・大沢泰夫



角川書店

著者紹介

吉沢典男 (よしざわのりお)

東京外国語大学教授

専攻 音声生理学・実験音声学

大沢泰夫 (おおさわやすお)

毎日現代展・版画グランプリ展等出品

装丁・イラストレーション多数

図解外来語辞典

著 者・吉沢典男

イラスト・大沢泰夫

発行者・角川春樹

印刷者・横山 弘

東京都墨田区亀沢 1-9-14

製本者・宮田四郎

東京都文京区後楽 2-23-7

発行所・角川書店

東京都千代田区富士見 2-13 〒102

振替口座 東京 3-195208

電話 03-265-7111 (代表)

初 版・昭和54年10月30日発行

装 丁・代田 奨

製版印刷・横山印刷 製本・宮田製本

落丁本・乱丁本はお取替えます

© Norio Yoshizawa 1979

0581-062700-0946(0)

内部交流

S79/23 (日6-2/74)

図解外来語辞典

BG00062

序にかえて

古来、“百聞は一見に如かず”という。新しいところで、情報理論的にいえば、“見”は“聞”の百倍の情報量をもっているということになるろうか。

そんなことを考えているときに、ふと、図解式の外来語辞典を作ってみたいと思いついた。

わたしなりの原案をもって、話をしてみると、文字通りたちどころに社側の賛意を得ることができ、本書の編集は始まった。

性質上、分野別に語彙をまとめ、その異同を絵と語義解説の両面からよく理解できるようにということを中心にして編集を進めた。

しかし、編集が進むにつれて思わぬ問題にしばしばぶつかった。

その1は、分野別に分ければ分けるほど、今まで漠然としか考えていなかったせいであろうか、語義・用法の異同を明確に記述することのむずかしさだった。

その2は、いざ図解ということをしてみると逆に情報量が多過ぎて、語との対応がかえってあやふやになったり、あるいは、逆に、絵によって事柄が限定されたりするということだった。

その他、大小さまざまな問題を整理しつつ、ようやく、刊行までこぎつけることができたのは幸いであった。

本書の成るについては、大沢画伯をはじめとし、後藤騎一郎、武井宏允、五島保孟、加藤修、伊藤由紀子、乙顔良夫、宮北敏秀、国司正恵の、各氏の筆致に負っているところきわめて大である。

また、本文記事の分類・編集という大変な仕事については、長友土岐島雄が、文字通り全面的に先頭に立って采配を振ってくれた。土岐の力なくしては本書はできあがらなかったであろう。

終りに、イラストの多さでは他に例をみぬとおもわれる、本書の困難な編集に当られた角川書店辞書教科書部の方々に深甚の謝意を表して筆を擱く。

1977年9月30日

吉 沢 典 男

なお、原稿の作成・整理の段階で電気・化学の方々の協力を蒙ることもできた。明記して謝意を表する。
守屋宏則、当増靖彦、奈良部幸子、吉沢百合子、小島基次、加藤弘、金丸健二、清水幹夫、金沢美代子、高梨小夜子。

この辞典の使い方

I 収録語の範囲

- 1 本書は私たちの家庭生活や社会生活に用いられている外来語約1万6千語を収録して見出し語として掲げ、解説したものである。
- 2 本書でいう外来語とは、外国語から日本語に借り入れられて、広く日常生活に定着しているとみられることば(ただし、漢語からのものは除く)をいう。“国語化プラス大衆化もしくは通俗化(荒川惣兵衛氏)”した外国語ともいえる。したがって、ある職業分野などでは常用されていても、それが一般化するかわりその分野をはみ出してより多くの人々が用いていることばでないかぎり、まだ外国語であって外来語には至っていないと解して収録していない。
- 3 “和製語”“和製英語”“洋語”などといわれる、日本で独自に作りあげられたことば(たとえば“テーブルスプーン”など)や、独自の使い方をされることば(たとえば“アルバイト”など)も外来語の範囲に含め、収録した。
- 4 日本語との複合語(たとえば“プロ野球”など)は、特に重要と考えられるものを収録した。
- 5 固有名詞のうち、人名については原則として採らなかったが、地名・名所、商標・商品名については、それぞれ部門をたてて収録した。

II 本書の構成

- 6 **見る辞典** 外来語の語義説明にあたり、文章によるよりもイラスト(図示・図解)による方が適切である場合が少なくない。特に、語義の異同がそのことばのさし示す事物の形状のちがいにあるときなどは有効である。その意味で、本書はイラストを、本文解説を補うものとしてだけでなく、本文解説との有機的結合を意図して、積極的

活用した。

- 7 イラスト化にあたっては、個々のことばに対応する事物を描き分け、整理・配列するばかりでなく、イラストページとしてのまとまりをもたせるよう工夫した。これは“見る”辞典の試みである。
- 8 **読む辞典** イラストと本文解説の対応、その有機的な結合をはかることは、収録語について、関連あることばをグループにくくこと——部門別構成を促す。外来語の理解には、その対語・類義語などの理解をあわせ含むことが多いと考えられるが、これをより広く隣接・関連することばの範囲まで広げることは、イラスト化同様効果的であり、各々のことばが五十音順配列のなかで孤立的に検索される場合にくらべ、いっそう広く深い理解をもたらすものと思われる。
- 9 収録語は、全158部門に区分、それを9つの大部門にまとめ、配列した。部門配列にあたっては、身近なところから外へ、日常の暮し・家庭から社会・世界へとし、各部門の始めに部門の名を掲げ欄外に表示した。各部門内のことばの配列は五十音順とした。これらは、本書を日常の場に少しでも簡便に役立てることを意図したものであり、またこの部門別構成は、読む辞典の試みでもある。なお、部門の構成・配列については、“部門別構成一覧”(vページ以下)を参照していただきたい。
- 10 **ひく辞典** 辞書本来の“ひく”要素をみたすため、また特に本書が部門別構成であるためにことばの検索上、“総索引”が不可欠である。少し大部となったが巻末に付した。
- 11 あるひとつのことばはその使われる場面・分野に応じて、いくつかの意味・用法をもつことは少なくない。従来の五十音順配列方式の辞典では、これらは同じ見出しのもとに、語義の下位区分あるいはことばの“位相”によるちがいで説明されてい

る。本書の場合は部門別構成をとっているから、これら複数の語義は各々、複数の部門に分割配置・解説されている。したがって語義のより明瞭化と引きかえに、複数部門に頻出することになる。一語の全語義を見る煩雑さを幾分なりとも省くためにも、巻末「見出し総索引」を活用されたい。

III 解説・表記など

12 見出し

12-1 見出しはアンチック活字を用い、各部門ごとに五十音順配列とした。ただし、清音→濁音→半濁音、直音→拗音、直音→促音の順とした。

12-2 見出しのなかにローマ字、数字を含む場合は、日本語→ローマ字→数字の順とした。

12-3 長音を表す“アー”“ゴー”などは、それぞれ“アア”“ゴオ”として扱った。

12-4 見出しは原則として“外来語の表記(昭和23年3月、国語審議会発表)”に従い、外来語はかたかな、それ以外の日本語は通例の漢字ひらがなまじりで表記した。

12-5 外来語の表記については、現実的には必ずしも表記の一定していないものが少なくない。それらの“ゆれ”ている語形については、煩雑さを避けるために、原則として、見出し総索引で検索できるようにした。

12-6 もとの外国語が複合語である場合、それに応じてハイフンをつけた。

12-7 もとの外国語が異なっても、日本語の表記が一致する場合、同一の見出しとして扱った。

13 もとの外国語の言語名およびその綴り

13-1 もとの外国語の言語名およびその綴りは、ともに【 】の中に示した。

イエティ【チベット yeti】…

テレマーク【ノルウェー Telemark】…

13-2 言語名のうち、英語(米国における

ものも含む)については原則として表示しなかった。

エール【yell】…

yell は英語であることを示す。

英語以外の言語については、

ポンチョ【ポ poncho】…

ルダングト【33 redingote】…

のような表示を行った。なお、次の言語名については省略して表示した。“中”は中国語、“朝”は朝鮮語、“米”はアメリカ英語を示す。

キムチ【朝 gimci (沈菜)】…

バオズ【中 bāo (包子)】…

ハイボール【米 highball】…

13-3 “和製語”については“和”で示し、ことばの成り立ちについては、

トダン【和←髣 tutanaga】…

ミルクーフード【和←milk + food】…

のように、“←”と“+”(複合語の場合)を併用した。なお、異なる言語からの複合語の場合、

テーマソング【和←英 Thema + 英 song】…

のように、“英語”をも表示した。

13-4 もとの外国語における綴りは、原則としてローマ字表記で示した。ただし中国語・朝鮮語などで対応する漢字表記のあるものについては()につづんで示したものもある(13-2の例を参照)。

13-5 もともとローマ字以外の文字を用いる言語(ロシア語、ギリシア語、アラビア語など)についても、ローマ字化した表記で示した。

13-6 イタリック体は、見出しに含まれない部分、および、複合語の外国語の一部を“翻訳”して借り入れたと考えら

れる場合その翻訳に相当する部分などに用いた。

ケネプロ【和→英 Generalprobe】…
ケヘル番号【Köchel Verzeichnis】

- 13-7 日本語と外来語による複合語と考えられることばについては、

当てレコ【～recording】

のように“～”をもって日本語表記にかえた。

14 解説

- 14-1 上記、12、13は原則として解説にも適用される。
- 14-2 解説は、現代かなづかいに基づき、“当用漢字表”によることを原則としたが、部門によっては必要に応じて表外字をも用いた。
- 14-3 語義区分などを、●、●などで示した。ただし、部門別構成をとっていることから、多くの場合、異なった語義は異なった部門で解説されている。索引によって他の部門をも参照されたい。
- 14-4 解説中、“◆”以下は、副次的な解説であることを示す。なお、“◆”のあとに、

…◆“屋根”の意。

のようにある場合、“…”は、見出しに対応するもとの外国語の、その言語における原義を示している。

15 参照

- 15-1 同一部門内での参照関係は、すべて“→”で示した。対語、反対語、類義語、語の表記による異同などを含んでいる。
- 15-2 他部門への参照関係は“⇒”で示した。

バイアスロン⇒いろいろなスポーツ。

は、“いろいろなスポーツ”部門の“バイアスロン”を見よ。の意であり、

トボガン ⇨リュージュ(いろいろなスポーツ)。

は、“いろいろなスポーツ”部門の“リュージュ”を参照せよ。の意である。

IV イラストページ

16 本文との対応

- 16-1 イラストページは原則として、本文解説ページと相前後して配置し、本文解説中の見出し語に対応する事物のいくつかをイラスト化した。本文解説が数ページにわたる場合、イラストページも、数ページにわたることが多く、その場合は、各ページごとに視覚的にまとまった構成を心がけた。したがって、本文解説とイラストページは、ひとつの部門内で相互に補完しあう体裁となっているが、部門の大小・長短により、必ずしも見ひらきの左右ページのようには対応していないことがある。
- 16-2 本文解説の見出し語に対応するイラストがその部門のイラストページではなく、近接する他部門のイラストページにおかれていることがある。したがって同一部門内にイラストがない場合も、総索引にあたってみられたい。

V 見出し総索引

- 17 本書のすべての見出し（本文解説、イラストページとも）についての索引を巻末に設けた。
- 17-1 索引の配列順序は、本文の見出し（五十音順）に準じる。
- 17-2 本文解説のページ数を明朝体（ ）で、イラストページのページ数をイタリック体（ ）で示した。

部門別構成一覽

都市・交通 (2—43)

タウン	2	空の交通<エアライン一覽>	28
道路交通	5	空の交通<旅客機>	30
自動車・オートバイ	6	鉄道交通	33
空の交通<空港・航空機>	23	海交通	39

ホーム・ライフ (44—211)

ハウスキューピング	44	色彩	123
ショッピング	46	美容・化粧	125
ファッション<洋服店>	48	食生活<全般>	138
ファッション<素材>	55	食生活<料理・食品>	141
ファッション<柄>	61	食生活<キッチン>	159
ファッション<そろい>	66	食生活<テーブル>	163
ファッション<上着>	77	食生活<ティータイム>	166
ファッション<スカート>	83	嗜好品<酒>	176
ファッション<フック>	88	嗜好品<タバコ>	184
ファッション<袴>	91	住まい<全般>	188
ファッション<袖>	96	住まい<エクステリア>	193
ファッション<コート>	96	住まい<リビングルーム>	194
ファッション<下着>	102	住まい<寝室・バス>	197
ファッション<帽子>	106	住まい<建材>	200
ファッション<靴>	110	健康と医学<病氣・医療>	202
ファッション<バッグ>	114	健康と医学<医薬品>	207
アクセサリ	116	健康と医学<セックス>	210
宝石	121		

レジャー・ホビー (212—287)

レジャー・ホビー全般	212	ボウリング	250
旅行	214	社交ダンス	254
ホテル	216	ゲーム	256
遊園地	219	トランプ	258
アウトドア	221	カメラ・フォト	260
サイクリング	227	オーディオ	267
ゴルフ	230	DIY	274
サーフィン	242	園芸	278
モータースポーツ	244	ペット動物	283
ギャンブル	248		

スポーツ (288—413)

スポーツ全般	288	レスリング	368
野球	294	フェンシング	372
テニス	313	アーチェリー	374
卓球	319	射撃競技	376
バドミントン	322	体操競技	378
バレーボール	326	ウエイトリフティング	380
バスケットボール	330	陸上競技	382
サッカー	334	自転車競技	386
ラグビー	340	水泳	388
アメリカン・フットボール	347	ボート・カヌー	390
ホッケー	351	ヨット	392
アイス・ホッケー	354	アイス・スケート	395
ハンドボール	356	スキー	398
ウォーター・ Polo	358	登山	406
ボクシング	360	いろいろなスポーツ	410

芸術・芸能 (414—477)

芸術全般	414	音楽〈楽器〉	447
文芸	415	音楽〈楽譜〉	454
神話	419	音楽〈クラシック音楽の形式〉	458
美術	429	バレエ・舞踏	462
音楽〈全般〉	434	ステージ	465
音楽〈コンサート〉	439	スクリーン	468
音楽〈ポピュラー音楽〉	442		

社会生活 (478—557)

社会全般	478	産業〈金融〉	518
マス・コミ〈電波〉	480	産業〈証券〉	520
マス・コミ〈新聞・雑誌〉	492	産業〈工場・機械〉	522
マス・コミ〈出版〉	494	産業〈電子・電器〉	526
マス・コミ〈デザイン〉	497	産業〈コンピュータ〉	530
マス・コミ〈広告〉	498	産業〈化学〉	533
政治・法律	500	産業〈原子力〉	538
オフィス	504	産業〈建設〉	540
経済全般	507	産業〈鉱山・金属〉	544
ビジネス	510	産業〈農林水産〉	548
労働	514	産業〈貿易〉	555
産業〈全般〉	517		

人の科学 (558—587)

ことばと文字	558	歴史	573
ころろのはたらき	560	暦と行事	576
宗教	562	呼びかけ・あいさつ	578
童話物語	565	人と職業	580
学校・教育	567	Mr. & Ms.	584
哲学	571	西洋人の名のり	586

サイエンス (588—627)

サイエンス全般	588	気象	606
単位	590	星と宇宙	609
数学	596	宇宙開発	613
地球	597	ライフ・サイエンス	620
元素一覧	601	動物	623

世界の事情 (628—679)

人種・民族	628	世界の国	643
国際問題	630	世界の通貨一覧	653
国際組織	633	地名・名所	656
軍事	639	商標・商品	670

その他 (680—692)

图解外来語辞典

都市・交通

タウン

アーバン・デザイン [urban design] 都市デザイン。都市計画を図面化すること。

アクアポリス [和 ← aqua + pol] 海上都市。沖縄海洋博(1975年)で実験的に建設された施設の名称。◆“水の都市”の意。

アスファルト・ジャングル [asphalt jungle] 都会の密林。アスファルトで舗装された道路が狭く、ビルが高低に立てこむ大都会を、ジャングルにたとえ、“危険な場所”の意を加味したもの。

アセスメント [assessment] 評価。算定。“環境アセスメント”は環境事前調査といわれ、埋め立てや工場建設などが自然環境に与える影響を事前調査すること。

アドバルーン [和 ← ad + balloon] 広告用気球。

アミューズメント・センター [amusement center] 盛り場。歓楽街。遊戯設備、映画館などが密集する場所。

アメニティ [amenity] 快適性。都市の住みよさ、快適性が1970年代の新しい都市政策で注目されるようになった。「飾、電気装飾。

イルミネーション [illumination] 照明による装。
エキュメノポリス [ecumeno-polis] 多核的広域都市。都市機能をそれぞれもった諸都市が、交通・通信網でネットワークされ、広域に結ばれるもの。

エスカルゴ [法 escargot] バリの公衆便所。◆“かたつむり”のことで、上から見た形が似ているところがエリア[area]地域、地帯、地方。しる命名。

オートライン [auto line] 自動道路。繁華街や空港などで装置される、ベルトコンベヤー式の“動く道路”。
オートレーン (auto lane)。
オートロード (auto road)とも。◆昭和36年(1961)、東京見本市でおめえ。

オープン・スペース [open space] 都市の中の、建物などない、あいたゆとりある場所、空間。

キャピタル [capital] 首都。

クラスター [cluster] ある秩序でまとまった空間単位の一群。道路のまわりに房状に建てられた住宅地域など。◆“花・果物の房”の意。

ゲーム・センター [game center] 各種の遊戯器具が置かれている施設。

ゴースト・タウン [ghost town] “ゆうれい都市”。鉱山が廃鉱になったり、疫病が流行したりして、誰も住む人がいなくなってしまう町。◆米国・ロサンゼルスに近い残るゴールドラッシュ時代のものが有名。

コスモポリス [cosmopolis] 国際都市。◆ギリシア語のcosmos(世界)とpolis(都市)の複合語。

コミュニティ [community] 地域、地区、地域

社会、地区、町、市など、種々の単位がある。
コミュニティ・センター [community center] 地域(社会)の中心地。公会堂・スポーツ施設などを兼ねた所。

サブナード [和 ← sub + promenade] 地下遊歩道。◆昭和50年(1975)に東京・新宿にできた新地下街に名づけられたもの。

サンドイッチ・マン [sandwich man] 2枚の広告板を体の前後にぶら下げて、街路を歩く宣伝員。◆日本では大正6年(1917)ごろおめえした。

シートピア [和 ← sea + Utopia] 海中都市。ごく部分的な実験段階のもの。◆“海の理想郷”のシティー [city] 都市、都会。し意。

シティズン [citizen] 市民、住民。時計の商標名(シチズン)にも使われている。

シビル・ミニマム [和 ← civil + minimum] 都市住居者のための生活環境の最低条件。住宅・交通・社会保障など多岐にわたる。◆東京都昭和43年(1968)に発表した計画で用いた。

ショッピング・センター [shopping center] 商店街。

「りかれたオン・サイン。

スカイ・サイン [sky sign] 空中広告。高所に設

スカイ・スクエア [sky square] 高層建築街。

スカイスクレーパー [skyscraper] 摩天楼。超高層建築。

スカイ・パーキング [和 ← sky + parking] 立体式の駐車場。あるいはその建物。メリー・ゴー・ラウンドのように回転する格納庫に車を入れ、建物の上に運び上げる方法をとる。

スクール・ゾーン [和 ← school + zone] 通学・通園路として指定された区域。自動車の交通が登下校時に禁止される。

スクエア [square] 広場。特に、交差点に設けられた方形のもの。

ストリート・ガール [street girl] 街路に立つ売春婦。街娼(がいじう)。

スプロール [sprawl] 不規則に広がることで、特に、都市発展の急激、無秩序な宅地化をさす。地価の安い所へ、虫食的に発展する現象。

スポーツ・センター [sports center] 各種の運動競技施設が集まっている所。

スモッグ [smog] 煙霧、煤煙(すす)などの高濃度の汚染物質が大気中に立ちこめ、霧のようになったもの。◆smoke(煙)とfog(霧)の合成語。

スラム [slum] 貧民窟(ふく)。貧民街。

ゼブラ・ゾーン [zebra zone] 横断歩道。◆縞(しま)模様を描かれているところから。zebraは“しまうま”。

ゾーニング [zoning] 利用目的による土地の区分

タウン [town] 町、都会、都市。し。

ダウン・タウン [down-town] 下町、繁華街。◆高

台にある住宅街から、商店街などへ下っていくことから、

タワー [tower] 塔、塔状の高い建物。

タワービル [tower building] 屋上に展望台をもつような高層建築物。

デッド・エンド [dead end] 行き止まり、袋小路。
ドーナツ現象 [doughnut] 都市開発で、都市の中心や駅周辺が地価高騰のため非住宅化して残り、その周辺に連巻きに住宅が建つような現象。
◆中空のドーナツ状になることから、

ニュー・タウン [new town] 大都市周辺に新しく開発・建設された町。◆第二次大戦後、ロンドン近郊に建設された町の呼称に始まる。

ネオン・サイン [neon sign] ネオン管を使った照明で、広告や装飾用の看板。ネオン管は、真空のガラス管にネオンガスやアルゴンガスを封入し、放電させるもので、多種の色が出る。邦略してネオン。

パーク [park] ①公園、庭園。②駐車すること。

ハイツ [heights] 高地、高台、高台の住宅地帯をもいう。◆戦後、米軍が“パリス・ハイツ(東京・三宅坂)”，“ワシントン・ハイツ(東京・代々木)”などの名で、集団住宅地帯と呼んだところから一般化。

バス・ストップ [bus stop] バス停留所。

パトロール [patrol] 巡視。特に、警察の巡回警ら制度。◆古フランス語の patte (足) から。

パトロール・カー [patrol car] 警官が巡回や捜査に用いる自動車。略してパトカー。◆昭和25年(1950)から、東京、大阪におみえ。

パルコ [parco] 公園、遊園地。◆東京の西武系列の新会社パルコ(株)が、専門店街を作った時に命名してから一般化。

ビジネス・ストリート [business street] 会社、銀行、官庁などが立ち並ぶ街路。

ビジネス・センター [business center] 会社、銀行、官庁などが集中している地域。

ビルディング [building] 高層建築物。邦略してビルとも。また、Bldg. と表示する。

フード・センター [和←food+center] 飲食店と食料品店の集まった地域。または、食料品専門のマーケット。

ブーム・タウン [boom town] にわか景気の新興都市。石油や金が発見されて、急に発展した町。◆boomは、大砲・鐘などの音の擬音語。

プラザ [plaza] 広場、市場。

プラタナス [platanus] すずけ、すずかけのき科の落葉高木。葉は大形で、縁に浅い切れ込みがある。秋に、鈴をかけたような実がなる。街路樹用。

フラワー・ベッド [flower bed] 花壇。街路に置かれる四角な植木鉢をさすこともある。

フラワー・ポット [flower pot] (街路に置かれる円い) 植木鉢。

プレー・ガイド [和←play+guide] 全社名(KK

プレーガイド)。映画、演劇、演奏会などの案内や前売り券を発売する。

ブロック [block] 一区画。

ベッド・タウン [和←bed+town] 大都市近郊の住宅地帯。◆住民が昼間、都市に働きに出、夜、寝るために帰ってくるから命名。

ベンチ [bench] 長い腰掛け。共同椅子。

ホール [hall] 公会堂、会館。

ポスト [post] 郵便箱。郵便受け。◆英語では pillar box (ピラーボックス)、米語では mailbox (メールボックス)。

ポプラ [poplar] 西洋はこやなぎの類の総称。落葉高木で、葉は菱形。街路樹、庭木に用いられる。◆明治中期に移入。

ポリス [policeman] 警官。巡査。ポリとも。

ポリス・ボックス [policeman box] 交番。派出所。

マロニエ [マ marronnier] とちのき科の落葉高木。初夏に、緑色の筋と紅色のほかしのある白色の花を鐘状につける。街路樹用。

マンホール [manhole] 潜孔。下水道、地下道などの修理や掃除の際、作業員が路面から出入りするための穴。鉄製の蓋がしてある。

メガロポリス [megapolis] 巨大都市。巨帯都市。“東海道メガロポリス”は、京浜・中京・近畿圏をつなぐ巨帯都市をさす。◆米国の地理学者ゴットマンの命名。

メトロポリス [metropolis] 大都市。大都会。首府。

メトロポリタン [metropolitan] 首府の、大都会的な。

モール [mall] 散歩道。商店の並んだ歩道。並木があつたり、ベンチが置かれたりする。

モニュメント [monument] 記念碑。記念物。記念建造物。

ラーバン地域 [rurban community area] 都市と農村の中間地域。◆rurban は rural (農村の) と urban (都市の) の合成語。

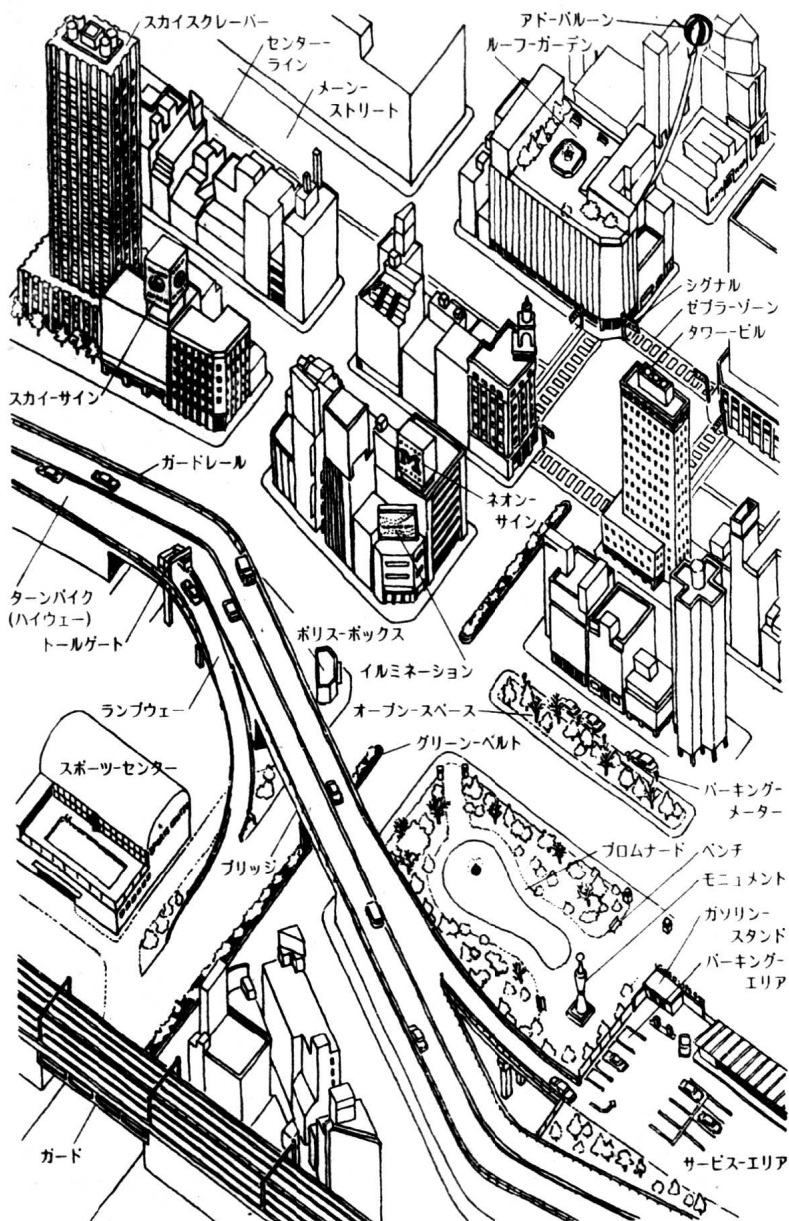
ルーフ・ガーデン [roof garden] 屋上庭園。ビルの屋上に作られた庭園。

Jターン現象 [和←J-turn] Uターン現象の半分、つまり出身地に近く、都市的サービスが受けられる、地方の中小都市に戻る現象を、“Uの半分のJ”を当て表現したもの。

PO [post office] 郵便局。◆私書箱の表示は、PO Box No. …。

ppm [part(s) per million] 百万分率。物質量を百万分比で示す単位。大気中の亜硫酸ガスや酸化炭素の量を示す時などに使われる。

Uターン現象 [U-turn] 地方から都市へ出てきた人々が、ちょうど自動車もU字形に旋回して引き返すように、出身地に戻る現象。



道路交通

アウトバーン [Autobahn] ドイツの高速自動車国道。ナチスドイツ時代、ヒトラーにより建設が推進され、高速道路のモデルとなった。

アスファルト [asphalt] 道路舗装などに使われる、石油の蒸留残留物。

アベニュー [avenue] 街路のうち、大通り。ストリートと対応する場合は、定まった方向に平行な大通りをさす。

インターチェンジ [interchange] 高速道路での立体交差の出入り口。邦略してインターとも。

ガード [girder bridge] 道路の上にかげられた鉄橋。
ガード・ケープ [guard cable] 防護索。路肩や車道と歩道の間に設けられる鋼製のロープ。

ガードレール [guardrail] 防護柵。路肩や車道と歩道の間に設けられる鋼製の柵。◆本来は鉄道の脱線防止のための補助レールをいう。

カーブ [curve] 道路の曲がり部分。

ガソリンスタンド [和 ← gasoline + stand] 道路沿いの給油所。◆英語では、gas station (ガスステーション)、service station (サービスステーション)、filling station (フィリングステーション)。

キープ・レフト [keep to the left] 左側通行。2車線以上の道路で、最も左寄りの車線を走ること。
グリーンベルト [greenbelt] 道路中央の草木を植えた分離帯。より広く、都市の中の緑地帯をもいう。

クロスロード [crossroad] 交差点。十字路。

クロソイドカーブ [clothoid curve] 高速道路でのゆるやかなカーブ。車が一定速度で走れば、ハンドルを切らなくても曲がって行くしくみの曲線路。

サービス・エリア [service area] 高速道路での休憩所。給油所、洗面所、軽食堂などがある。
シグナル [signal] 信号(機)。

スカイライン [skyline] 観光道路の愛称。“ヘス・カイン”などと用いる日本独自の呼称。◆“地平線”の意。

スクランブル [scramble] 交差点での横断方法の1つ。全方向の車を遮断した交差点を、歩行者が自由な方向に横断できる方式。◆昭和43年(1968)、熊本市で開始。

スコッチ・ライト [Scotch light] 螢光塗装した道路標識。自動車のライトが当たると光るようになっている。

ストリート [street] 街路。アベニューに直角な道路をさすこともある。「の」安全地帯。

セーフティ・ゾーン [safety zone] (歩行者のため)
ゼブラ・ゾーン [zebra zone] 横断歩道。◆車道上に縞(き)模様を描いて区別したことから。

センター・ライン [center line] 道路を左右に区

分する中央線。

ターンパイク [turnpike] 有料道路。◆もとは通行料を取り立てるために道路を遮断した障害物(パイク)をいう。

チャッター・バー [chatter bar] 自動車の速度を落とさせるためのこぼ路面。有料道路の料金所や交差点の前などにつけられる。「収所」。

トールゲート [tollgate] 有料道路の通行料徴
ドライブウェイ [driveway] 自動車道路。◆英語では通りから建物・車庫などに通じる“車寄せ”の意で用いられる。

ノー・パーキング [no parking] “駐車禁止”。

パーキング [parking] 駐車。駐車場をさすこともある。

パーキング・エリア [parking area] 駐車区域。
パーキング・メーター [parking meter] 駐車料金計。路上駐車用に設置されるもの。◆昭和34年(1959)、東京・日比谷に設置されたのが最初。

パークウェイ [parkway] ◆芝生や並木で区切った大通り。◆自動車専用道路。
ハイウェイ [highway] 自動車専用高速道路。

◆英語では主要・幹線道路の意で用いられる。

ハイウェイ・パトロール [highway patrol] 高速道路での交通取り締まり警察官の通称。
バイパス [bypass] 迂回路(りうろ)。市街地などの混雑する場所を迂回する道路。

ピッチ [pitch] 道路舗装などに使われる、タールの蒸留残留物。瀝青(れいせい)。

ブルバール [boulevard] 街路のうち、大通り。
フリーウェイ [freeway] 自動車専用高速道路。

平面交差、停止信号などがない高速道路。
ブリッジ [bridge] 橋。鉄道線路や道路の上に架かっている通路。

プロムナード [promenade] 散歩道。遊歩道。また、散歩のものいう。「路、略してペーブとも」。

ペーブメント [pavement] 舗道。舗装された道
ベルト [belt] 環状道路。環状線。ベルト・ハイウェイ(belt highway)の略。「リ」。

メイン・ストリート [main street] 本通り。大通
モーター・プール [motor pool] 駐車場。

ランプウェイ [rampway] 高速道路の出入り口の斜道。略してランプとも。

ルート [route] 道。路線。経路。

レーン [lane] 車線。道路上の通行区分。

ロータリー [rotary] 環状交差点。交差点の中央に設けられた円形地帯。

ロータリー・システム [rotary system] 交通整理法の1つで、走行車をすべて環状交差点路(ロータリー)に沿って同一方向に巡回させる方式。

ロード [road] 道路。街道。
ロード・ミラー [road mirror] 道路のカーブや交差点などに設置された凸面鏡。

自動車〈オートバイ〉

アーム・レスト [arm rest] 座席のひじ掛け。ドアに取りつけられているものが多い。

アイドリング [idling] エンジンの遊転。から回り。

アクセル・ペダル [← accelerator + pedal] 加速用ペダル。エンジンの回転を調節するもので、踏みこむと回転が上がる。◆アクセルは邦略形。

アクセレレーター [accelerator] 加速装置。二輪車ではハンドルの握りに連結され、それを回して調節する。邦略してアクセル。◆“調節弁”の意。

アンダー・ステア [under steering] 操向装置の特性の1つ。車が一定速度で旋回している時に速度を上げると、前輪の軌跡が外側にくらんで回転半径が大きくなる特性。→オーバー・ステア。

アンダー・トレイ [under tray] グローブ・ボックスの下に設けられている物入れ用の棚。

アンチスキッド・タイヤ [antiskid tire] →ノン・スキッド・タイヤ。

「クッキングを抑制する限度」。

アンチノック [antiknock] 耐ノック性。エンジンのノ

アン・メーター [ampere meter] 電流計。バッテリーの充・放電電流を示す。

イグニッション [ignition] エンジンの点火装置。電源、変圧、調整、配電、発火の諸装置からなる。

イグニッション・キー [ignition key] エンジンの点火スイッチ・キー。エンジン・キー（和製語）とも。

イグニッション・コイル [ignition coil] エンジンの点火コイル。バッテリーや発電機で生ずる低圧電流を数千ボルト以上の高圧電流に変える1種の変圧器。

インジェクション [injection] 化器の燃料噴射装置。ガソリンを完全燃焼させ、排気ガスを浄化する。

「ン」。

インペリアル・セダン [imperial sedan] →リムジ

ウィンカー [winker] 点滅式方向指示器。フラッシャー (flasher) とも。◆“まばたきするもの”の意。

ウィンカー・レバー [winker lever] 点滅式方向指示器用の操作棒。

ウインドー・ウォッシャー [window washer] 窓ガラスの汚れを洗い落とす装置。

ウインドー・レバー [window lever] 窓を開閉するための操作棒。

ウインド・レギュレーター [window regulator] 窓の開閉装置。またそのためのハンドル。

ウインド・ワイパー [windshield wiper] 自動車の窓ふき器。略してワイパー。和製語でウインド・クリーナー (window cleaner) とも。

ウォーター・ジャケット [water jacket] エンジンの水套 (すゐ) 水室。エンジンの過熱を防ぐための、シリンダーの周囲などの水を入れるすきま。

ウォーニング・ランプ [warning lamp] 警告燈。

燃料・潤滑油の残量が少ないことや、速度の出し過ぎ、ドア・ロックのしめ忘れなどを知らせるもの。

エア・アウトレット [air outlet] 空気の出口。ふつう、後席の後ろにあり、換気をよくする。

エア・クリーナー [air cleaner] 空気清浄器。化器に取り入れる空気に含まれるほりなどの異質物を除去する装置。

エア・サスペンション [air suspension] 空気ばね。ゴム製の袋に圧縮空気を入れて、鋼製スプリングに代わらせるもので、バスなどに広く使用される。エア・クッション (air cushion) とも。

エア・ダクト [air duct] 換気するための導管。

エア・ダム・スカート [air dam skirt] 車体前部の下部。バンパーよりも下に作られたスカート状の張り出し。走行中に前部が浮き上がるのを防ぎ、安定性を高める。

エア・バッグ [air bag] 緩衝用空気袋。ハンドルや計器盤に装着され、車の衝突によるショックで自動的にふくらみ、運転者のけがを防ぐ装置。

エア・ブレーキ [air brake] 空気制動装置。圧縮空気で作動させるブレーキ。バス、トラックなどの大型車用。◆米国ウエスタン・ハウス社の発明。

エア・ホーン [air horn] 圧縮空気を利用して鳴らす警音器。

「エキ・パイとも」。

エキゾースト・パイプ [exhaust pipe] 排気管。

エキゾースト・マニホルド [exhaust manifold] 排気多岐管。

エコノミー・ラン [economy run] 経済運転。市街地 40 km、高速道路 80 km 程度の速度で、燃料消費量をふやさないように走ること。略してエコランとも。

エステート・ワゴン [estate wagon] ステーション・ワゴン型の乗用車。おもに英国でのいひ方。

エンジン [engine] 内燃機関。発動機。燃料 (ガソリンや軽油) と空気の混合ガスを燃焼・爆発させ、その圧力でピストンを押し、コンロッド (連接棒) を経てクランク軸を回転させる原動機。

エンジン・オイル [← engine + oil] エンジン用の潤滑油。

エンジン・ブレーキ [engine brake] 機関制動。走行中にアクセルを緩めると、駆動輪の回転が逆にエンジンを回すように働き、制動がかかる。また、駐車時、ギアを低速 (または後退) に入れておくことをいう。

エンジン・ルーム [engine room] エンジン収納部。ふつうは車体前部のボンネットの下にあるが、車種によっては、座席の真後ろ、車体後部にあるものもある。

エンスト [← engine + stop] “エンジンのストップ (故障による停止)”を邦略したことは、「名マーク」。

エンブレム [emblem] 象徴。表象。自動車の車

オイル・キャップ [oil cap] 油注入管のふた。

オイル・クーラー [oil cooler] 油冷却器。エンジン熱で温められた潤滑油を冷却する装置。

オイル・パン [oil pan] 油受け、油ため、油槽、エンジン下部の潤滑油をためておく部分。

オイル・フィルター [oil filter] 油濾過器、潤滑油中の不純物、変質物を除去する装置、オイル・クリーナー (oil cleaner) と同。

オイル・ブレーキ [oil brake] 油圧ブレーキ、ペダルに加わる力を油圧に変えて制動装置を作動させる方式のもの。

オイル・ポンプ [oil pump] エンジン・オイルを強制循環させるポンプ。

オートカー [autocar] 自動車、ぶつう、オート(auto)、またはカー(car)と省略。

オート・クラッチ [automatic clutch] 自動クラッチ、遠心力や電磁力を利用して断続操作が自動的に行われるクラッチ。

オート・チョーク [automatic choke] 気化器の自動チョーク、エンジン温度に応じて空気弁の開閉を自動的に調節する装置。

オートバイ [和 ← auto + bicycle] 自動二輪車、単車、法規上は、エンジンの排気量が50ccを超えるもの(それ以下のはモーターバイク)。◆英語では motorcycle(モーターサイクル)、または motorbike(モーターバイク)。

オートマチック・トランスミッション [automatic transmission] 自動変速装置、発進、加速などの走行状態に応じて自動変速を行う装置、日本ではノークラッチとも。

オートモビル [automobile] 自動車、◆おちに米国でのいい方、英圏は motorcar(モーターカー)。

オーナー・ドライバー [owner-driver] 自家用車を持ち、みづから運転する人。

オーバー・ステア [over steering] 操向装置の特性の1つ、車が一定速度で旋回している時に速度を上げると、後輪の軌跡が外側にふくらんで回転半径が小さくなる特質、→アンダー・ステア。

オーバー・トップ・ギア [over top-gear] 変速装置で、最高速(トップ)よりさらに上の状態にすること、推進軸の回転をエンジンの回転より速くすることで、加速よりエンジンの摩擦の減少や燃料消費量の節約が目的。

オーバードライブ [overdrive] 増速駆動、高速走行時に、速度を落とさずにエンジンの回転数を自動的に推進軸の回転数よりも低くする、燃料消費が少なく、排気音も低くなる。

オーバーヒート [overheat] エンジンの過熱、冷却作用が不調な時に発生する。

オーバーフロー [overflow] ①気化器にガソリンが流れ込み過ぎてあふれ出ること、②エンジン過熱のため、ラジエーターの冷却水があふれること。

オーバーヘッド・コンソール [overhead console] 天井に取りつけられた計器盤。

オープン・カー [open car] 屋根なし乗用車、また

は屋根を自由に取り外してできる乗用車。

オクタン価 [octane number] ガソリンの燃焼ノック性を示す数値、低いとノッキングを起こす。

オドメーター [odometer] 積算走行距離計。

オプション・パーツ [optional parts] 任意注文の部品、標準装備以外に客の注文によって取り付ける装置部品、略してオプションとも。

オレオダンパー [oleodamper] 油圧緩衝装置、油圧で衝撃を吸収するもので、自動車の緩衝、航空機の降着に用いられる。

カー [car] 自動車、広義に、電車などを含めた陸上での乗り物をもいう、◆マイカー、カーラジオ、など電車種を表現して、〜カーのように複合語として使われることが多い。

カーカス [carcass] タイヤの枠組、胴体、ぶつう、ナイロン糸を織ったものにゴムをしみこませたコード層を何枚が重ねて作られる。

カー・クーラー [car cooler] 自動車用冷房装置。

カー・ステレオ [car stereo] 自動車用のステレオ。

カー・ラジオ [car radio] 自動車用のラジオ。

カスタム・カー [custom car] 特別注文車、客の注文によって各部の改造や特別装備をした車、本来は手作りの部品を用いた車をさす。

ガソリン [gasoline] 揮発油、原油を蒸留して得られる無色で臭みのある液体、燃料、溶剤などに使われる、◆英国では petrol(ペトル)。

ガソリン・エンジン [gasoline engine] 揮発油(ガソリン)を燃料とする内燃機関、「ガソリン」槽。

ガソリン・タンク [和 ← gasoline + tank] 燃料(ガソリン)を貯えるタンク、配電器・オイル・ポンプを駆動するギアや燃料ポンプ用のカムも付属している。

ギア [gear] 歯車、または歯車による変速装置、ギヤとも、「入れ換え操作すること、

ギア・チェンジ [gear change] 変速のため、ギアをキックバック[kick back] けり返し、タイヤの振動がベテリングに伝え戻ること。

キック・ペダル [kick pedal] 二輪車のけり下ろし式のエンジン始動用の足掛け、けり下ろすと、エンジン内のクランク(往復運動を回転運動に変える装置)が回転し、始動しやすくなる。

キャスト [caster] 前輪の車軸に施される前後方向の傾斜角、車輪の直進性、方向復元性を向上させる。

キャブ・オーバー [cab over the engine] トラックやバスなどで、エンジンの上に運転台を置く型式のもの。

キャブレター [carburetor] 気化器、ガソリンを霧化して空気と混合し、爆発性の混合気を作る装置、略してキャブとも。

キャンバー [camber] 前輪を車の前方から見て上向きに取り付けること、ハンドルの操作を軽くする。

キャンピング・カー [和 ← camping + car] 調理